

令和 7 年度 英語科 シラバス

科 目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	Heartening English Communication Ⅲ				
補助教材等	大学入学共通テストリスニング LISTENING ACE 10 UPGRADED				

1 学習の到達目標

- ・ 英文の内容を十分に理解し、各レッスンの伝えようとしている教訓や、意味を味わう。
- ・ 共通テストで求められる読解力、聞く力を身に付ける。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○英語学習は、繰り返し繰り返し、根気強く取り組むことしかありません。わからないところは自分で納得のいくまで、追求しましょう。

○

○

○

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	文法事項の理解度や単語、構文等の習得度	文章内容の理解度や表現の能力	提出物等の提出状況
主な評価方法	・ 定期考査 ・ ・ ・	・ 定期考査 ・ ・ ・	・ 定期考査後の提出物 ・ ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5 6	Lesson1 ～Lesson3	Heartening English Communication	35	・自分のアイデンティティを決めるもの ・未来の技術を予測すること ・睡眠を科学する	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
7 8 9	Lesson4 ～Lesson5	Heartening English Communication	35	・多様性と受け入れ ・タンパク質について	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
10 11 12	Lesson6 ～Lesson8	Heartening English Communication	35	・様々な幸せの形 ・AIを利用することの賛否 ・金継ぎ	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
1 2	Lesson9 ～Lesson10	Heartening English Communication	35	・自分のメッセージを理解してもらうこと。 ・医療倫理	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する

令和 7 年度 英語科 シラバス

科 目	論理表現Ⅲ	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	FACTBOOK English Logic and Expression Ⅲ				
補助教材等					

1 学習の到達目標

- ・英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ・英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 文法事項の復習をしながら、自分の意見を英語で伝える方法を学ぶ。
- 場面ごとに、自分の意見を伝えるためには、どのような表現があるのかを学習する
-
-

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの 評価の観点 の趣旨	文法事項の理解度や単語、構文等の習得度	文章内容の理解度や表現の能力	提出物等の提出状況
主な評価方法	・ 定期考査 ・ ・ ・	・ 定期考査 ・ ・ ・	・ 定期考査後の提出物 ・ ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5 6	Grammar Review 1～3	FACTBOOK English Logic And ExpressionⅢ	18	・文型 ・文型の拡張 ・修飾 ・不定詞	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
7 8 9	Grammar Review 4～7	FACTBOOK English Logic And ExpressionⅢ	17	・進行形 ・完了形 ・時制 ・受動態 ・仮定法	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
10 11 12	Grammar Review 8～10	FACTBOOK English Logic And ExpressionⅢ	18	・比較 ・話法 ・重要表現	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する
1 2	Unint 1～10	FACTBOOK English Logic And ExpressionⅢ	17	・意見を述べる ・説明、描写する ・グラフを読む	A:目標を達成できた B:目標をおおむね達成できた C:さらに努力を要する

令和 7 年度 情報科 シラバス

科 目	情報Ⅱ	単位数	2	履修学年・クラス(講座)	3 学年文系選択
使用教科書	日本文教出版 情報Ⅱ				
補助教材等	日本文教出版 サブノート,Python(モナカエデュケーション),AIドリル(共通テスト模試) ライフイズテック				

1 学習の到達目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用し、情報社会に主体的に参画してその発展に寄与するための資質・能力を養う。

2 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

- 教科書、サブノート、および 1 人一台端末を活用して座学と実習を行う
- 協働作業を通じてコミュニケーション能力の向上をはかる
- オンライン授業の形態も利用しながら多様な授業を体験・実践する
- 日々の授業課題をぬかりなくやる
- 共通テスト対策を計画的に実践する

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めている。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価・改善し新たな価値を創造しようとしている。
主な評価方法	・ワークシート ・反転学習(P スタディ) ・考査 など ・	・ワークシート ・作業ファイル ・話し合い ・発表 など	・振り返りシート ・行動観察 など ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 月	序章	教科書 サブノート	6	1 なぜ「情報Ⅱ」を学ぶのか (1) 新たな価値を創造するために (2) 情報技術によって変わる はたらき方を考えるために (3) 新たな社会をつくり出すために (4) 情報Ⅱと他教科との関係 2 「情報Ⅱ」で学ぶこと (1) 情報社会の進展と情報技術 (2) コミュニケーションとコンテンツ	(a)DX, Society 5.0 など近年の情報化の進展を表す考え方を理解している。・(b)情報技術が新たな価値や社会を創造することによって貢献できるのか考えられる。・(c)これからの社会で情報技術がどのように役立つのかを考えることを通して、情報社会の発展に寄与しようとしている。 ・(a)教科書の構成を踏まえ、情報Ⅰと学習内容の違いを理解している。

	第1節 情報技術による社会や生活の変化			(3) 情報とデータサイエンス (4) 情報システムとプログラミング (5) 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究 Ⅰ 情報技術による社会や生活の変化 (1) コンピュータや携帯電話の発達による変化 (2) インターネットによる変化	・(b)情報Ⅰと情報Ⅱの学習内容を比較し、情報Ⅱの学習を通して、情報技術および情報社会への理解がどう深まるのか考えられる。 ・(c)情報Ⅱの学習が、情報技術および情報社会の理解にどのように役立ちそうか見通しを立てようとしている。 (a)コンピュータ、携帯電話、インターネット等の情報技術の発展の歴史を踏まえ、情報社会の進展について理解している。 (b)情報技術の発展の歴史を踏まえ、わたしたちの生活や社会に与えてきた影響について考えられる。 (c)情報技術の歴史に関心を持ち、その発展の経緯を調べようとしている。
5月	第2節 情報社会と情報セキュリティ	教科書 サブノート	8	2 情報技術の進展と今後 (1) コミュニケーションの変化 (2) コンテンツの変化 (3) データ活用による変化 (4) 人工知能による変化 (5) これからの社会でわたしたちに求められる能力 Ⅰ 情報セキュリティの重要性 (1) サイバー犯罪と情報セキュリティ (2) 情報セキュリティの3要素 (3) 情報セキュリティポリシー 2 情報社会における権利と法律 (1) 情報社会がかかえる問題 (2) 知的財産権と著作権 (3) 個人情報保護法 (4) 情報社会におけるさまざまな法律	(a)ソーシャルメディアの発展によるコミュニケーションの多様化について理解している。データや AI の発展による人の知的活動への影響について理解している。(b)コミュニケーションが多様化する社会におけるコンテンツのあり方について考えられる。データ活用や AI を利用する意義について考えられる。(c)社会における問題解決のために情報技術がどのように役立っているのか調べようとしている。これからの社会でわたしたちに求められる力について考えようとしている。 (a)サイバー犯罪とはどのようなものか理解している。情報セキュリティの重要性と必要性について理解している。(b)情報セキュリティを確保するために必要な技術がどのような役割をはたしているか考えられる。個人が気をつけるべき情報セキュリティ対策について考えられる。(c)情報社会の問題を発見・考察することを通して、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。 (a)情報に関する法規や制度について理解している。情報社会の進展にともない、さまざまな法律が整備されてきたことを理解している。 (b)情報に関する法規や制度の意義、課題について考えられる。(c)情報に関する法規や制度を理解して、情報社会に主体的に参画しようとしている。
6月	第2章 第1節 コンテンツの制作	教科書 サブノート	8	Ⅰ コンテンツ制作のプロセス (1) 複数のメディアを組み合わせたコンテンツの制作	(a)文字、音声、静止画像、動画のメディアにおける特性を理解している。効果的なコンテンツを制作する過程での留意点を把握してい

				(2) ユーザ視点のコンテンツ制作 (3) コンテンツ制作のプロセス 2 仮説生成と要件定義 (1) コンテンツの対象を発見するためのユーザ調査 (2) 解決策立案のための仮説生成 (3) 要件定義 3 メディアプランニング (1) 情報共有に適したソーシャルメディア (2) ソーシャルメディアと人間の行動形態 (3) メディアプランニング	る。ユーザが見やすく、使いやすいコンテンツについて理解している。(b)コンテンツにおいて使われているメディアが、それぞれどのような効果をもたらしているかを考え判断できる。効果的なメディアの使い方について、具体的に考え表現できる。(c)コンテンツにおけるメディアの効果について、考えようとしている。複数のコンテンツについて差異を観察し、意見交換している。本時の学習活動を振り返り、自らの学習を改善しようとしている。 (a)要件定義書をまとめるためのユーザ調査の手法を理解している。問題解決の仮説を作成する手法を理解している。(b)ユーザ調査に必要な内容を考え作成し、実施することができる。問題解決の仮説に必要なペルソナを考え、構造化シナリオを作成することができる。ユーザ要件定義を考え、わかりやすく表現できる。(c)ユーザ調査に必要な調査内容や、ユーザ要件定義の具体化のために、積極的に意見交換している。本時の学習活動を振り返り、自らの学習を改善しようとしている。 (a)ソーシャルメディアの特性について理解している。メディアプランニングについて理解している。(b)人間の行動形態に照らし合わせて効果的なメディアの選別を考えることができる。文化祭 Web サイトを広く伝えるためのメディアプランニングを立案できる。(c)文化祭 Web サイトを広く伝えるためのメディアプランニングについて、積極的に意見交換している。本時の学習活動を振り返り、自らの学習を改善しようとしている。
7月	第2節 Web サイトによる情報発信	教科書 サブノート Python	6	4 コンテンツの制作と評価・改善 (1) 作業の進行と内容の管理 (2) プロトタイプの作成 (3) コンテンツの制作と評価・改善 1 Web サイトのしくみと情報発信 (1) HTML と CSS (2) Web サーバとブラウザ, Web アプリケーション (3) Web サイトによる配信	(a)コンテンツを制作する工程時間・内容を管理する方法を理解している。(b)コンテンツを制作する工程時間・内容を役割に合わせて無理なく計画できる。完成したコンテンツの評価法を考え、実施することができる。(c)コンテンツ制作の計画に合わせて、積極的に行動しようとしている。コンテンツの評価について、積極的に意見交換している。本時の学習活動を振り返り、自らの学習を改善しようとしている。 (a)Web サイトによる情報発信のしくみと Web アプリケーションの役割について理解している。SSL/TLS による安全な情報通信のしくみについて理解している。(b)導入する Web アプリケーションを選択できる。安全に通信するために必要な SSL サーバ証明書の発行元を選択できる。(c)Web アプリケーションや、SSL サーバ証明書について、積極的に意見交

				2 Web サイトの定量的な分析 (1) アクセス解析の活用 (2) アクセス解析ツールの選び方 (3) アクセス解析からの分析とコンテンツの改善	換している。本時の学習活動を振り返り, 自らの学習を改善しようとしている。 (a) アクセスログを解析し問題・課題点を把握する重要性を理解している。アクセス解析を行うためのツールについて理解している。Web サイトに必要な SEO 対策の具体的な方法を理解している。(b) アクセスログから, 問題・課題点を考え, 改善策を考えることができる。Web サイトに必要な SEO 対策を考え, 実行することができる。(c) アクセス解析ツールの操作を通して, 問題・課題点について積極的に意見交換し, 具体的な改善策も提案している。本時の学習活動を振り返り, 自らの学習を改善しようとしている。
8月	第3章 第1節 データ 活用の重要性	教科書 サブノート Python	2	1 情報システムとデータ (1) 情報システム上で流通するデータ (2) データの種類 (3) ビッグデータ (4) オープンデータ	(a) 社会で活用されている情報システムのしくみを理解している。情報システム上で流通するデータと尺度の関係を理解している。(b) ビッグデータとオープンデータの事例についてわかりやすく表現できる。(c) 情報システム上のデータと尺度の関係を理解しようとしている。ビッグデータとオープンデータの具体例について調べ, 共有しようとしている。
9月		教科書 サブノート	8	2 データサイエンスの活用① (1) データサイエンスの役割と重要性 (2) 交通需要予測 (3) レコメンデーション 3 データサイエンスの活用② (1) 売り上げ予測 (2) 製品検査 (抜き取り検査) (3) 証拠に基づく政策立案 1 データの収集 (1) データ収集の手法 (2) 集計と誤差 (3) バイアス (4) 交絡 2 データの整理 (1) データクレンジング (2) 尺度について (3) 欠損値の処理 (4) 外れ値の処理	(a) データサイエンスとはどのような学問分野であるか理解している。データサイエンスが活用されたサービスについて理解している。(b) データサイエンスが活用されたサービスのしくみについて詳しく調べ, わかりやすく発表, 表現できる。(c) データサイエンスとその活用例について理解しようとしている。データサイエンスが活用されたサービスのしくみについて詳しく調べようとしている。 (a) 標本調査における適切なサンプルサイズについて理解している。バイアスと交絡が調査結果にもたらす影響について理解している。尺度と統計量の関係について理解している。前処理の必要性和処理の方法について理解している。(b) 標本調査における適切なサンプルサイズを表現することができる。バイアスや交絡の具体例と調査結果への影響を判断できる。表計算ソフトウェアなどを利用して, 適切な前処理と統計処理を行うことができる。(c) 標本調査の調査結果と母集団との間に生じる誤差について理解しようとしている。バイアスや交絡の調査結果への影響について判断しようとしている。尺度と統計量の関係について理解

	第3節 データの蓄積と活用			1 データベース (1) データベースとデータモデル (2) リレーショナルデータベース (3) データウェアハウス 2 リレーショナルデータベースの設計 (1) スキーマ (2) ER 図 (3) データベースの正規化 3 リレーショナルデータベースの操作 (1) リレーショナルデータベースの操作 (2) データベースを操作するための言語 (SQL)	しようとしている。前処理と統計処理を適切に行おうとしている。 (a)リレーショナルデータベースの構成について理解している。データウェアハウスの特徴と利用方法について理解している。リレーショナルデータベースの設計方法を理解している。データベースを正規化する目的と手順を理解している。リレーショナルデータベースで必要な情報を取り出すための操作を理解している。SQL を使ったデータベースの操作方法を理解している。(b)リレーショナルデータベースのテーブルを作成するとき、主キーを意識したテーブルの構成を考えることができる。データベーステーブルの正規化と分割を適切に行うことができる。リレーショナルデータベースから目的に応じて操作を判断し、必要なビューを作成できる。データモデル、データベース、データウェアハウスを理解しようとしている。リレーショナルデータベースのテーブルを積極的に作成しようとしている。リレーショナルデータベースの設計方法を理解しようとしている。データベーステーブルを正規化しようとしている。リレーショナルデータベースの操作方法を理解しようとしている。SQL を用いてデータベースを操作しようとしている。
10月	第4節 データの分析	教科書 サブノート Python	8	1 データ分析と可視化 (1) データ分析と可視化 (2) グラフによる可視化 (3) 図による可視化 2 数理モデル (1) 数理モデル (2) 説明変数と目的変数 (3) 線形モデル (4) 確率モデル (5) よいモデルと悪いモデル 3 機械学習 (1) 機械学習とは (2) 教師あり学習, 教師なし学習, 強化学習 (3) 統計学的手法とニューラルネットワーク 4 変数選択と次元削減 (1) よりよい分析を行うために (2) 変数選択 (特徴量選択) (3) 次元削減 5 回帰分析 (1) 回帰分析とは (2) 単回帰分析 (3) 重回帰分析	"(a)データ分析における可視化の必要性和その方法について理解している。尺度とデータ分析に利用されるグラフの関係について理解している。数理モデルの考え方と構築方法について理解している。モデルの種類およびモデル構築の留意点について理解している。機械学習の考え方について理解している。データの与え方や学習のしかたによって異なる機械学習の分類と活用について理解している。変数選択の重要性和その選択手法について理解している。数理モデルにおける次元削減の重要性を理解している。回帰分析とは何かについて理解している。単回帰分析と重回帰分析の方法について理解している。(b)取得したデータを可視化するために最も適切なグラフを選択し表現できる。または、効果的な図に可視化できる。データから数理モデルを構築することができる。機械学習の分類ごとに、データの与え方や学習のしかたについて、活用例を交えて説明できる。用意したプログラムあるいはモデルから、適切に次元削減したデータを取得できる。与えられたデータを用いて決定係数を求め、回帰モデルの当てはまり具合を判定で

					きる。データ分析における可視化の必要性とその方法について理解しようとしている。データを取得して効果的に可視化しようとしている。数理モデルの考え方と構築方法について理解しようとしている。データから数理モデルを構築しようとしている。機械学習の考え方や手法について理解しようとしている。機械学習の活用例について調べようとしている。次元削減の重要性とその具体的方法を理解しようとしている。主成分分析の手法を通して、次元削減して得られたデータを確認しようとしている。回帰分析とは何かについて理解しようとしている。単回帰分析と重回帰分析を行おうとしている。
11月	第4章 第1節 情報システムのしくみと情報セキュリティ技術	教科書 サブノート Python	6	1 情報システムと社会への影響 (1) 情報システムとは (2) さまざまな情報システム (3) 情報システムが社会に与える影響 2 情報システムの処理のしくみ (1) 情報システムが処理するデータ (2) 情報システムの処理形態 3 情報システムを支える技術 (1) RFID (2) GPS と GIS 4 情報セキュリティの確保 (1) 情報システムのトラブルとその影響 (2) 暗号化による情報流出の防止 (3) アクセス制御とアクセス権 (4) 内部のネットワークを守る技術 (5) システムを止めない工夫"	(a) 情報システムがわたしたちの生活に必要な不可欠であることを理解している。情報システムによって得られる利便性とともに、その課題についても理解している。RFID や GIS など、情報システムを支える技術について理解している。情報システムに障害をもたらす脅威について理解している。情報セキュリティを支える技術について理解している。(b) 情報システムが果たしている役割を考え説明できる。個々の情報システムについて問題点を考え、改善策を考えることができる。ネットワークについて、これまでに経験したトラブルや問題点を考察し、改善策を判断できる。たとえば自宅のネットワークを快適にする具体的な案を、図を用いてわかりやすく表現できる。(c) 情報システムのもたらす影響力について、積極的に意見交換している。情報システムのメリットや問題点について、積極的に意見交換している。本時の学習活動を振り返り、自らの学習を改善しようとしている。情報システムで扱われるデータの内容について発表しようとしている。教科書に記述された技術について、積極的に意見交換している。発表資料作成に積極的に参加している。また、興味・関心をひく発表になるように努力している。
12月					
1月					
2月					

令和 7 年度 英語科 シラバス

科 目	実用英語	単位数	3 単位	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	Express Yourself Logically				
補助教材等					

1 学習の到達目標

日常生活に関わる様々な英文やビデオ教材等を通して、日常生活で用いられる語彙や表現を学び、会話やプレゼンテーション、メール等を書く練習をして、英語の運用能力を高める。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ALT の先生や教材から、様々な表現を身に付けましょう。
- 英語表現で大切なことはミスを恐れない心です。勇気を持って自分を表現しましょう。
-
-

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	英語でよく使われる表現を身に付けてるかどうか	場面に適した表現ができているかどうか。	自分から進んで調べたり、発表したり、質問したりする姿勢。
主な評価方法	・プレゼンテーション ・スピーキングテスト ・ ・	・プレゼンテーション ・スピーキングテスト ・	・プレゼンテーション ・スピーキングテスト ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5 6	Lesson1～ Lesson5	Express Yourself Logically	26	Breakfast Mother's Day Halloween To Stay Healthy Online Reading に関する表現	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する
7 8 9	Lesson6～ Lesson10	Express Yourself Logically	27	Fast Food Restaurant Money English as a Global Language Stressful IT Society Advertisement に関する表現	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する
10 11 12	Lesson11～ Lesson15	Express Yourself Logically	26	Shakespeare Credit Card Three Ways of Learning A New Type of Computer Electricity に関する表現	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する
1 2	Lesson16～ Lesson20	Express Yourself Logically	26	Purpose of Education Rainforests What Is Sound Magnet The Earth に関する表現	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する

令和 7 年度 家庭科 シラバス

科 目	生活文化	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年選択
使用教科書	フードデザイン（教育図書）保育基礎（教育図書）				
補助教材等					

1 学習の到達目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育や食生活など生活全般の充実向上を担うために必要な資質や能力を次の通り育成することを目指す。

- （１）家庭基礎の内容を発展させ、保育や食生活などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとする。【知識及び技能】
- （２）家庭と社会とのかかわりの中から課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する能力を養う。【思考力・判断力・表現力】
- （３）ライフスタイルの多様化が進む現代社会において、様々な人と協働し、自らの生活を総合的にデザインしようとする実践的な態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○家庭基礎の内容を発展させ、実習・演習を主として学びます。積極的に授業に取り組んでください。

○日頃から保育や食生活に関わるニュースに関心を持ち、今何が問題視されているのかをとらえ、自分なりの考察ができるようにしていきましょう。

○調べ学習やレポートによる提案などを重ねて、実習に結び付けていきますので、タブレットを大いに活用していきましょう。

○ライフスタイルの多様化が進む中で、「命、暮らし、人」に関わる学びを深めましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	保育や食生活などについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。	生活全般に関する課題を発見し、考察や実践を繰り返しながら課題解決のために考えを深めようとしている。	様々な人と協働し、自らの生活を総合的にデザインしようとする実践的に取り組んでいる。
主な評価方法	・定期テスト2回（前期中間・期末考査）	・定期テスト2回（前期中間・期末） ・レポート記述内容 ・実習や発表などの場面での観察	・調理実習 ・被服製作実習 ・レポート発表 ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	栄養素と食品 調理してみよう	栄養素と消化吸収 食品とその特徴	9	・基本となる栄養素の特徴を理解する。 ・食品の特徴、調理上の性質を理解し、調理実習を行う。	・栄養素の特徴を理解している。(a) ・栄養摂取に必要な食品を把握している。(b) ・調理の目的と手順を理解し、実習に取り組もうとしている。(c)
5	食品選択と取り扱い	食品選択のコツ	12	・地域の食材について学び、献立作成と調理実習を行う。	・地域の特徴ある食材を調べ、自分なりの課題をもってまとめ発表し伝えようとしている。(b)
6		食品の衛生と安全	12	・食の安全と環境について、自分の食環境から課題を設定し調べる。	・食の安全にかかわる問題を理解し自分の考えをまとめ説明しようとしている。(a)
7 8	子供の発達と生活	子供の発達の特性 子供の健康と安全	15	・子供の発達の特性や家庭を体系的・系統的に理解する。 ・健康的な生活に必要な養護について学ぶ。	・子供の発達の特性を理解している(a) ・子どもの生活に関する課題を考えまとめ理解を深めようとしている(b) ・保育用品の製作に積極的に取り組もうとしている。(c)
9	子供の福祉	児童福祉の理念と法規・制度	12	・子供の福祉の理念や制度について理解し、これからの社会に求められる保育について考察する。	・子供の保育の現状を理解し、課題を考察しようとしている。(b)
10	子供の文化	子供文化の意義 子どもと遊び	12	・子供の文化や遊びについて理解し、健やかな発達を促す活動に関連する技術を理解し実践する。	・子供の遊びと表現活動について、発達の特性との関連性を理解しようとしている。(a) ・実践するために技術を学び実践しようとしている。(c)
11	食文化	食と文化の関わり	9	・季節や行事をテーマに献立作成を行う。また、それに合わせたテーブルコーディネートを考える。	・クリスマス为主题として、献立作成から調理、飾り付け、まとめを一連の流れの中で創意工夫しようとしている。(c)
12 1 2	カラーコーディネート	色彩の基礎	27	・カラーコーディネートの基本を理解し、色の組み合わせを考える。	・色彩の基礎を理解したうえで、テーマに沿ったカラーコーディネートを工夫しようとしている。(b)

令和 7 年度 国語科 シラバス

科 目	古典探究	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年・文系
使用教科書	高等学校 古典探究（数研出版）				
補助教材等	古典探求（数研出版）古典探求 準拠ワーク（数研出版）リテラ速読レッスン古文 vol. 2（文英堂）リテラ速読レッスン漢文 vol. 2（文英堂）必携 新明説漢文（尚文出版）読んで見て覚える 古文単語 315（桐原書店）改訂版これでわかる明快古典文法（いいずな書店）				

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。【知識及び技能】
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 皆さんが古典を学ぶことで、現代を生きる自分自身の在り方や生き方を見つめ、よりよい生に繋がることを願っています。
- 古文は音読を大切にしましょう。音読を通して古文特有の言葉、リズムに慣れましょう。
- 文章を読解するためには、重要古文単語を確実に習得し、古典文法の知識を定着させることが大切です。古文単語帳活用等によりひとつずつ確実に重要古文単語を理解し覚えると同時に、教科書や問題集の予習・復習を通して古典文法を身につけていきましょう。また、当時の文化・生活習慣等の古典常識の学習も並行して進めていきましょう。
- 漢文こそ音読です。音読を通して漢文独特の言い回しやリズムをまず耳から身につけましょう。そのうえで書き下し文に直したり、重要句形をおさえたり、語彙を増やすことが漢文読解につながります。
- 漢文は日本の思想や文化と密接な関わりがあります。古文とのつながりも考えながら学習をすることでその繋がりが見え、自分自身の見識が広がっていく実感が得られるでしょう。
- 日本人が言語を用いて何を形成してきたかを是非考えてみましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めて	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで

	いる。	伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
主な評価方法	・定期考査結果 ・ワークシート記述内容	・定期考査結果 ・ワークシート記述内容 ・発表時の内容	・漢字小テストの取り組み ・授業中の行動観察 ・ペア、グループワーク時の行動観察 ・ふりかえりの記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	「古典の作品を多面的に評価する」	「二月のつごもりごろに」 「清少納言がこと」 「鳥の空音」	9	・「なほ内侍に奏してなさむ」とは、誰をどのように評しているのか。説明する。 ・『枕草子』と『古本説話集』が同じエピソードを通じて伝えたかったことはそれぞれ何か考える。 ・行成は清少納言のどのようなところを称賛したのか、整理して説明する。	・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(a) ・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価している。(b)
5	「漢文特有の表現に注意して内容を的確に捉える」	「知音」 「梁上君子」 「三横」	12	・伯牙が「破琴絶弦、終身不復鼓琴」としたのはなぜか、考える。 ・「一県無復盜竊」について、県の人々が陳寔のどのような人柄に感銘を受けたのか考える。 ・陸雲は周処にどのような助言をしたのかまとめる。	・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。(a) ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(b)
6	「作者の心情をたどりながら古典作品を読み、内容の解釈を深める」	「父の離京」 「土御門邸の秋」 「薫る香に」	12	・「ただひとへに悲しう心細きことをのみ思ふ」について、このときの作者の気持ちを説明する。 ・「女郎花」と「白露は」の二首の歌はそれぞれどのようなことを伝えようとしているのか考える。 ・「うち出ででも」「今日のまの」の贈答歌について、それぞれの歌に込められた気持ちを説明する。	・言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。(a) ・学習課題に沿って本文を解釈しようと粘り強く取り組んでいる。(c)
7 8	「漢詩の構成や展開などを的確に捉え、内容を解釈する」	「古体詩」	12	・それぞれの古体詩について、一句の字数、一首の句数、押韻がどうなっているかを確かめ、対句表現を抜き出す。 ・それぞれの古体詩の内容を解釈する。	・我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。(a) ・関心をもった事柄に関連する古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(b)

9	「漢文特有の表現に注意して内容を的確に捉え、作品を解釈する」	「売鬼」 「人面桃花」	12	・宋定伯の知恵が読み取れる言動を整理する。 ・本文中の詩について、崔護のどのような気持ちが表現されているかを考える。	・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。(a) ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(b)
10	「古典を読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する」	「車争ひ」 「須磨」 「紫の上の苦悩」	12	・本文中から、六条御息所・葵の上・光源氏の従者たちの言動が描写された箇所をあげて、その内容を説明する。 ・光源氏と従者とが詠み交わす四首の歌をそれぞれ現代語訳し、四首に共通する心情を説明する。 ・紫の上の苦悩とはどのようなものか説明する。	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典を読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。(b)
11	「漢文に表れているものの見方や考え方を踏まえ、人間や社会に対する自分の考えを深める」	「伯夷・叔斉」	9	・伯夷・叔斉の作った歌には、自分たちの運命に対するどのような気持ちが込められているか考える。 ・「天道是邪非邪」には、司馬遷のどのような気持ちが込められているのか考える。	・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(a) - 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(b)
12	「自分の解釈を互いに話し合い交流する」	「貫之と躬恒」 「道真と時平」	9	・本文では醍醐天皇をどのような人物として描いているのか考える。 ・語り手は、時平と道真に対してどのような思いを持ちながら語っているのか話し合う。	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) ・粘り強く本文の内容を読み解き、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。(c)
1	「漢文から得られるものの見方を現代に活かす」	「捕蛇者説」	9	・村人の生活と蔣氏の生活の違いをまとめる。 ・柳宗元はなぜこの文章を執筆したのか考える。	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) ・古典の作品について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。(b)
2	「古典作品に描かれた人間像を読み取り、広く人間とは何か考えを深める」	「菅原道真」 「王昭君」	9	・本文で菅原道真はどのような人物として描かれているか説明する。 ・王昭君が夷の王に降嫁することになった原因を、編者はどのように考えているか説明する。 ・『唐物語』「王昭君」を読み比べて、相違点をあげる。	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) - 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(b)

令和 7 年度 国語科 シラバス

科 目	古典探究	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	3 学年・理系
使用教科書	高等学校 古典探究（数研出版）				
補助教材等	古典探求（数研出版）古典探求 準拠ワーク（数研出版）リテラ速読レッスン古文 vol. 2（文英堂）リテラ速読レッスン漢文 vol. 2（文英堂）必携 新明説漢文（尚文出版）読んで見て覚える 古文単語 315（桐原書店）改訂版これでわかる明快古典文法（いいずな書店）				

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。【知識及び技能】
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 皆さんが古典を学ぶことで、現代を生きる自分自身の在り方や生き方を見つめ、よりよい生に繋がることを願っています。
- 古文は音読を大切にしましょう。音読を通して古文特有の言葉、リズムに慣れましょう。
- 文章を読解するためには、重要古文単語を確実に習得し、古典文法の知識を定着させることが大切です。古文単語帳活用等によりひとつずつ確実に重要古文単語を理解し覚えると同時に、教科書や問題集の予習・復習を通して古典文法を身につけていきましょう。また、当時の文化・生活習慣等の古典常識の学習も並行して進めていきましょう。
- 漢文こそ音読です。音読を通して漢文独特の言い回しやリズムをまず耳から身につけましょう。そのうえで書き下し文に直したり、重要句形をおさえたり、語彙を増やすことが漢文読解につながります。
- 漢文は日本の思想や文化と密接な関わりがあります。古文とのつながりも考えながら学習をすることでその繋がりが見え、自分自身の見識が広がっていく実感が得られるでしょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

		深めたりしている。	
主な評価方法	・定期考査結果 ・ワークシート記述内容	・定期考査結果 ・ワークシート記述内容 ・発表時の内容	・漢字小テストの取り組み ・授業中の行動観察 ・ペア、グループワーク時の行動観察 ・ふりかえりの記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	「古典の作品を多面的に評価する」	「二月のつごもりごろに」 「清少納言がこと」	6	・「なほ内侍に奏してなさむ」とは、誰をどのように評しているのか。説明する。 ・『枕草子』と『古本説話集』が同じエピソードを通じて伝えたかったことはそれぞれ何か考える。	・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(a) ・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価している。(b)
5	「漢文特有の表現に注意して内容を的確に捉える」	「知音」 「梁上君子」	8	・伯牙が「破琴絶弦、終身不復鼓琴」としたのはなぜか、考える。 ・「一県無復盜竊」について、県の人々が陳寔のどのような人柄に感銘を受けたのか考える。	・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。(a) ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(b)
6	「作者の心情をたどりながら古典作品を読み、内容の解釈を深める」	「父の離京」 「土御門邸の秋」	8	・「ただひとへに悲しう心細きことをのみ思ふ」について、このときの作者の気持ちを説明する。 ・「女郎花」と「白露は」の二首の歌はそれぞれどのようなことを伝えようとしているのか考える。	・言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。(a) ・学習課題に沿って本文を解釈しようと粘り強く取り組んでいる。(c)
7 8	「漢詩の構成や展開などを的確に捉え、内容を解釈する」	「古体詩」	8	・それぞれの古体詩について、一句の字数、一首の句数、押韻がどうなっているかを確かめ、対句表現を抜き出す。 ・それぞれの古体詩の内容を解釈する。	・我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。(a) ・関心をもった事柄に関連する古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(b)
9	「漢文特有の表現に注意して内容を的確に捉え、作品を解釈する」	「売鬼」	8	・本文に見られる鬼の特徴をまとめる。 ・宋定伯の知恵が読み取れる言動を整理する。	・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。(a) ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(b)
	「古典を読み、その内容の解釈を」	「車争ひ」 「須磨」	8	・本文中から、六条御息所・葵の上・光源氏の従者たちの言動が描写された箇所をあげて、その内容を説明	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) ・作品の成立した背景や他の作品な

10	深め、作品の価値について考察する」			する。 ・光源氏と従者とが詠み交わす四首の歌をそれぞれ現代語訳し、四首に共通する心情を説明する。	どとの関係を踏まえながら古典を読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。(b)
11	「漢文に表れているものの見方や考え方を踏まえ、人間や社会に対する自分の考えを深める」	「伯夷・叔齊」	6	・伯夷・叔齊の作った歌には、自分たちの運命に対するどのような気持ちが込められているか考える。 ・「天道是邪非邪」には、司馬遷のどのような気持ちが込められているのか考える。	・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(a) 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(b)
12	「自分の解釈を互いに話し合い交流する」	「貫之と躬恒」	6	・本文では醍醐天皇をどのような人物として描いているのか考える。	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) ・粘り強く本文の内容を読み解き、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。(c)
1	「漢文から得られるものの見方を現代に活かす」	「捕蛇者説」	6	・村人の生活と蔣氏の生活の違いをまとめる。 ・柳宗元はなぜこの文章を執筆したのか考える。	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) ・古典の作品について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。(b)
2	「古典作品に描かれた人間像を読み取り、広く人間とは何か考えを深める」	「菅原道真」 「王昭君」	6	・本文で菅原道真はどのような人物として描かれているか説明する。 ・王昭君が夷の王に降嫁することになった原因を、編者はどのように考えているか説明する。	・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a) 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(b)

令和 7 年度 公民 科 シラバス

科 目	倫理	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	「倫理」（東京書籍）				
補助教材等	「要点マスター倫理 整理と演習ノート」（東京書籍）				

1 学習の到達目標

①	《「知識及び技能」に関わる目標》 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにします。
②	《「思考力、判断力、表現力等」に関わる目標》 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養います。
③	《「学びに向かう力、人間性等」に関わる目標》 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めます。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

①	日常生活で気になった人間関係や言動、自分自身に関する事柄について、そのまま放っておかず、その原因や理由、背景、影響などについて考え、同様のことを考えた人物や関連する思想、理論等を調べる姿勢を持つこと。
②	日頃からメディアで報道される時事的な課題に関心を持ち、調べたり論点を見いだしたりすることに努めること。
③	客観的な複数の資料に基づいて、諸課題を多面的・多角的に考察し、解決のあり方を模索する態度を身に付けること。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	○現代の倫理的課題を捉え、他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解している。 ○諸資料から、現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまと	○他者と共によりよく生きる自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値、現代の倫理的課題などについて多面的・多角的に考察し、思索を深めている。 ○良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。 ○理解したこと、考察したこ	○人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を高めており、人格形成や自己形成の確立に努める実践的意欲を持っている。 ○現代の倫理的課題についての探究的な態度を身に付け、他者と共によりよく生きる在り方を主体的に探究しようとしている。 ○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強い取り組みを行おうとしている。また、そのよう

	めている。	となどを適切な方法で表現している。	な取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。
主な評価方法	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

4 学習及び評価計画

2

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5 6	・第1章 人間の心のあり方	教科書 資料集 演習ノート 問題集	33	・人間とは何か ・人間の心の働き	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
7 8 9	・第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ	教科書 資料集 演習ノート 問題集	24	1節 哲学すること 2節 ギリシャの思想 3節 宗教と社会 4節 キリスト教 5節 イスラーム 6節 仏教 7節 中国の思想 8節 芸術	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
10 11 12	・第3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ	教科書 資料集 演習ノート 問題集	30	1節 近代と人間尊重の精神 2節 近代思想の展開 3節 人格の尊厳と人倫の思想 4節 社会変革の思想 5節 理性への疑念 6節 人間観・言語観の問いなおし 7節 他者・自然とのかかわり	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
1 2	第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚	教科書 資料集 演習ノート 問題集	18	1節 日本人の精神風土 2節 仏教と日本人の思想形成 3節 儒教と日本人の思想形成 4節 国学の思想 5節 庶民の思想 6節 西洋思想と日本人の近代化 7節 国際社会に生きる日本人の自覚	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

令和 7 年度 地歴公民科 シラバス

科 目	政治経済	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年 該当講座
使用教科書	政治・経済（数研出版）				
補助教材等	政治経済資料集（第一学習社） 4 ステージ演習ノート政治・経済（数研出版）				

1 学習の到達目標

1 現代社会の諸課題について、政治・経済を中心に社会・文化などさまざまな観点から探求し、時事的な問題を切り口に、現代社会に対する興味・関心を高める。 2 現代社会について多角的な視点から考察するとともに、現代社会と自己との関わりに思いをいたし、いかに生きるかを主体的に考える。
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

〇二葉生としてふさわしい態度で授業に臨み、授業の復習を行う。ニュースに関心を持てると良い。
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨			
主な評価方法	・定期考査（知識問題） ・小テスト	・定期考査（思考問題） ・レポート	・授業態度や出席数など

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
前期中間 まで	第1編 第1章 第1節 民主政治の基本原 理 第2節 日本国憲法と基本的 人権 第3節 日本の政治機構 第4節 政治参加と民主政治 の課題	教科書 など	約20	教科書の内容	学習評価の通り

夏期補習	第 2 章 第 1 節 国際政治の動向 第 2 節 国際社会の課題と日本の役割	教科書 など	約 10	教科書の内容	学習評価の通り
前期期末 まで	<u>第 2 編</u> 第 1 章 第 1 節 経済活動の意義と経済体制 第 2 節 現代経済のしくみ	教科書 など	約 20	教科書の内容	学習評価の通り
放課後補習・土曜 講座	第 3 節 日本経済と福祉の向上	教科書 など	約 20	教科書の内容	学習評価の通り
後期中間 まで	第 2 章 第 1 節 国際経済の動向 第 2 節 国際経済の課題と国際協力	教科書 など	約 20	教科書の内容	学習評価の通り

令和 7 年度 数学科 シラバス

科 目	数学B・数学C	単位数	1+1	履修学年・クラス（講座）	3年理系・文系
使用教科書	新編数学B（数研出版） 新編数学C（数研出版）				
補助教材等	REPEAT 完成ノート 他				

1 学習の到達目標

（数学B）統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

（数学C）平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 数学に王道なし 授業に地道に取り組み、問題を解き、解けなければ質問に来て解決するこのサイクルをしっかりと作ること
- 自分にあった参考書・問題集を用意して、授業で扱った事柄をさらに深めていくことができると、力がつけられる
- 問題を解く力をつけるためには、解答に頼りすぎないことが重要 知識を絞りきって、それでも解けなければ解答を見る、という習慣をつける
- 書くこと、手を動かすことを厭わない姿勢を持つこと

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	統計的な推測・平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする	（数学B）確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察する力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う （数学C）図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を完結・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
主な評価方法	・定期考査 ・小テスト ・提出物など	・定期考査 ・小テスト ・提出物など	・定期考査 ・小テスト ・提出物など

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	数学B 第2章 統計的な推測	教科書 REPEAT 完成ノート	14	第1節 確率分布 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散 3 確率変数の和と積 4 二項分布	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
6	数学B 第2章	教科書 REPEAT 完成ノート	8	5 正規分布 第2節 統計的な推測 6 母集団と標本 7 標本平均の分布 8 推定	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
7 8 9	数学B 第2章 数学C 第3章 複素数平面	教科書 REPEAT 完成ノート	16	9 仮説検定 1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
10 11	数学C 第4章 式と曲線	教科書 REPEAT 完成ノート	14	第1節 2次曲線 1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
12 1	数学C 第4章	教科書 REPEAT 完成ノート	12	第2節 媒介変数表示と極座標 6 曲線の媒介変数表示 7 極座標と極方程式	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
2	総合問題	教科書 REPEAT 完成ノート	6	総合問題演習	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

令和 7 年度 数学 科 シラバス

科 目	数学Ⅲ	単位数	5	履修学年・クラス（講座）	3 年理Ⅰ講座
使用教科書	新編数学Ⅲ（数研出版）				
補助教材等	REPEAT 数学Ⅲ 完成ノート（数研出版） 他				

1 学習の到達目標

極限、微分法および積分法の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○解答の丸暗記では全く通用しないので、問題を見て「何をするべきか」「どう処理すればよいか」という「シナリオ」を考えながら問題に当たる。反復練習あるのみ。

○基本的な内容をしっかり理解したうえで、難易度の高い問題に当たること。「急がば廻れ」が結果的に近道となる。

○各自自分にあった参考書で学習することが望ましい。

○

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	極限・微分法および積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技術を身につけるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学の良さを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
主な評価方法	・定期考査 ・小テスト ・確認（単元）テスト ・その他	・定期考査 ・小テスト ・確認（単元）テスト ・その他	・小テスト ・課題提出状況 ・その他 ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時 数	学習内容	評価規準
4 5	第 1 章 関数 第 2 章 極限	教科書 REPEAT 完成ノート	35	分数関数 無理関数 逆関数と合成関数 第 1 節 数列の極限 第 2 節 関数の極限	(a) 学習内容を理解している。 (b)学習内容を応用問題に活かしている。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
6	第 3 章 微分法	教科書 REPEAT 完成ノート	20	第 1 節 導関数 第 2 節 いろいろな関数の導関数	(a) 学習内容を理解している。 (b)学習内容を応用問題に活かしている。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
7 8 9	第 4 章 微 分 法 の 応 用	教科書 REPEAT 完成ノート	40	第 1 節 導関数の応用 第 2 節 いろいろな応用	(a) 学習内容を理解している。 (b)学習内容を応用問題に活かしている。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
10 11	第 5 章 積 分 法 と そ の 応 用	教科書 REPEAT 完成ノート	35	第 1 節 不定積分 第 2 節 定積分 第 3 節 積分法の応用	(a) 学習内容を理解している。 (b)学習内容を応用問題に活かしている。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
12 1	総合 問題	教科書 REPEAT 完成ノート	30	総合問題演習	(a) 学習内容を理解している。 (b)学習内容を応用問題に活かしている。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

2	総合 問題	教科書 REPEAT 完成ノート	15	総合問題演習	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
---	----------	------------------------	----	--------	---

令和 7 年度 理 科 シラバス

科 目	化学	単位数	5	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	化学（数研出版）				
補助教材等	フォローアップドリル化学 物質の状態（数研出版） フォローアップドリル化学 熱化学・反応速度・化学平衡（数研出版） フォローアップドリル化学 無機物質（数研出版） フォローアップドリル化学 有機化合物（数研出版） フォローアップドリル化学 高分子化合物（数研出版） サイエンスビュー 化学総合資料（実教出版） チェック＆演習 化学 セミナー 化学基礎＋化学（第一学習社）				

1 学習の到達目標

化学的な事物・現象についての観察、実験を行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 授業内容等で分からないことがあれば、すぐに質問すること。
- 復習は必ず行い、学んだ内容を確認すること。
- 問題集を繰り返し解くことによって、知識や技能を身に着けること。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	様々な化学の現象と物質への理解を深め、科学的に探究するために必要な理解と実験に関する基本的な技能を身に付けているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける家庭において、粘り強く学習に取り組んでいるか。また、自ら学習を調製しようとしているか。
主な評価方法	・単元テストと定期テストにおいて評価する	・定期テストにおいて評価する。	・授業へ取り組む態度と課題への取り組みを評価する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
---	-----	-----	-----	---------	---------

4	・溶液 ・化学反応とエネルギー	教科書 問題集 授業プリント	15	・溶解とそのしくみ ・溶解度 ・希薄溶液の性質 ・コロイド溶液 ・化学反応と熱 ・ヘスの法則 ・化学反応と光	・水和という現象を理解する。(a) ・分子を極性分子と無極性分子に分けることができ、水への溶解の可否を判断できる。(b) ・物質の溶解とそのしくみについて興味をもつ。(c) ・冷却曲線と過冷却という現象について理解する。(a) ・飽和溶液において成立する溶解平衡について理解する。(a) ・沸点上昇や凝固点降下を利用することで分子量を求められることを理解し、その値を求めることができる。(b) ・ヘンリーの法則を用いて、気体の溶解量を求めることができる。(b)
5	・電池と電気分解 ・化学反応の速さとしくみ	教科書 問題集 授業プリント	20	・電池 ・電気分解 ・化学反応の速さ ・反応条件と反応速度 ・化学反応のしくみ	・電池について、その構造や両極で起こる反応、現象に興味をもつ。(c) ・水溶液の電気分解において陽極および陰極で具体的に起こる反応を理解する。(a) ・ある電解液を電気分解した際に陽極および陰極で反応する物質や発生する物質を判断できる。(a) ・実験結果から反応速度を求める方法を理解する。(a) ・反応速度式を用いて実験結果の処理などを行い、反応速度や速度定数を求めることができる。(b)
6	・化学平衡 ・非金属元素	教科書 問題集 授業プリント	20	・可逆反応と化学平衡 ・平衡状態の変化 ・電解質水溶液の化学平衡 ・元素の分類と周期表 ・水素・貴ガス元素 ・ハロゲン元素 ・酸素・硫黄 ・窒素・リン ・炭素・ケイ素	・化学平衡の法則を理解し、与えられた反応の平衡定数を濃度を用いて記述することができる。(a) ・平衡定数を用い、化学平衡における量的関係を求めることができる。(b) ・弱酸、弱塩基の遊離と塩の加水分解について理解する。(a) ・溶解度積を用いて量的計算を行うことができる。(b) ・電離平衡およびそれに関わるさまざまな現象について興味をもつ。(c) ・周期表に基づきながら、酸化物の示す性質や単体の酸化作用、還元作用を理解する。(a) ・ハロゲンの酸化力に基づいて、その反応性の強弱を判断できる。(b) ・ハロゲンの単体およびハロゲンを

					含む化合物について興味をもつ。 (c) ・酸素および硫黄の単体や化合物についてその性質を理解する。(a) ・一酸化窒素と二酸化窒素の性質について理解し、それぞれの製法の化学反応式を書くことができる。
7	・金属元素	教科書 問題集 授業プリント	15	・アルカリ金属元素 ・アルカリ土類金属元素 ・アルミニウム・スズ・鉛 ・遷移元素の特徴 ・鉄 ・銅 ・銀・金 ・亜鉛 ・クロム・マンガン ・その他の遷移金属 ・金属イオンの分離・確認	(b)・鉄の反応について体系立てた知識を表現できる。 ・アルカリ金属の単体や化合物に興味をもつ。(c) ・鉛(Ⅱ)イオンの反応について理解する。(a) ・鉄の反応について体系立てた知識を表現できる。(b) ・銅(Ⅱ)イオンの反応性について理解する。(a) ・銀の単体や化合物に興味をもつ。(c) ・過マンガン酸イオンの反応について体系立てた知識を表現できる。(b) ・金属イオンの系統分析の考え方をを用いて、複数の金属イオンが存在する水溶液から目的の金属を分離、確認することができる。(b)
8	・有機化合物	教科書 問題集 授業プリント	5	・有機化合物の特徴と分類 ・有機化合物の分析 ・飽和炭化水素 ・不飽和炭化水素 ・アルコールとエーテル ・アルデヒドとケトン ・カルボン酸 ・エステルと油脂 ・芳香族炭化水素 ・フェノール類と芳香族カルボン酸 ・芳香族アミンとアゾ化合物 ・有機化合物の分離	・有機化合物の分類について、炭素骨格での分類や官能基による分類を理解する。(a) ・与えられた分子式からアルカンの構造異性体やその名称を書き出すことができる。(b) ・アルコールやエーテルの特徴やその構造、反応性について興味をもつ。(c) ・アルデヒドやケトンの反応性に基づき、構造式や名称を書くことができる。(b) ・カルボン酸の化学式や名称、分類について理解する。(a) ・油脂の分子式や分子量を求めることができる。(b) ・有機化合物の分離の原理について理解する。(a)
9	高分子化合物	教科書 問題集 授業プリント	20	・高分子化合物の構造と性質 ・糖類 ・アミノ酸とタンパク質 ・核酸 ・合成繊維	・高分子化合物を分類することができる。(b) ・化学式や名称、構造、性質に基づいて糖類を分類することができる。(a)

				・合成樹脂 ・ゴム	・アミノ酸やタンパク質の構造や性質をふまえ、量的計算を行うことができる。(b) ・合成繊維の特徴やその重合方法、構造、利用例について興味をもつ。(c) ・イソプレンと天然ゴムの構造式を書くことができる。(b)
10	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	20	全範囲	(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう (b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。 (c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。
11	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	15	全範囲	(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう (b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。 (c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。
12	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	15	全範囲	(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう (b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。 (c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。
1	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	15	全範囲	(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう (b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。 (c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。
2	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	15	全範囲	(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう (b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。 (c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。

科 目	体育	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	なし				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

- ①各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- ②運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- ③生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
- ※体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○原則として、全ての種目を履修・習得すること。長期間（概ね20日以上）の欠席及び見学は、医師による診断書の提出が必要になる場合があるので相談をして下さい。

○

○

○

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・運動の技術の名称や 行い方、体力の高め方、 課題解決の方法、練習 の仕方、運動を行う際 の健康・安全の確保の 仕方についての具体的 な方法を理解してい る。	与えられた課題を解決す るために論理的に考え、 解決するために正しく判 断できている。また、仲 間と相談し、より良い解 決に導こうとしている。	・自ら進んで運動の楽しさや喜 びを味わおうとする。健康や安 全を確保して学習に主体的に取 り組もうとしている。
主な評価方法	・実技テスト （記録計測、チーム戦 績、技能の完成度） ・観察及び完成度 ・レポート等	・観察及び完成度	・観察及び完成度 ・レポート等

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5	体 つ く り 運 動 陸上競技 体育理論	ストレッチ ウォーキン グ 持久走 スポーツテ スト	8	活動的な運動・静的な運動、ウォー キング・ジョッキング等により体 力を高める。 持久走により、有酸素能力の向上 に努める。 スポーツテストの実施により、自 己の体力要素を把握する。	1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 ※上記の 3 つの観点から 種目 ごとに総合的に評価する。
5 6	球技	選択体育 ソフトボー ル バレーボー ル バドミント ン テニス 卓球	8	集団的要素と個人技能を習得し、 スポーツの楽しさを体験する。	
6 7	水泳	クロール 平泳ぎ	8	クロール・平泳ぎの基本的な技術 を体得し、より長く泳げるように する。 記録測定。	
8 9	球技	選択体育 バスケット ボール サッカー バドミント ン テニス 卓球	8	集団的要素と個人技能を習得し、 スポーツの楽しさを体験する。	
10	陸上競技		3	持久走により、有酸素能力の向上 に努める。記録測定。	
10 11 12 1	球技	選択体育 バスケット ボール フットサル バドミント ン テニス 卓球	8	集団的要素と個人技能を習得し、 スポーツの楽しさを体験する。	